

## 特別活動

### 1 特別活動の目標

特別活動は、ホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事の3つの内容から構成され、個人として、また、集団や社会の成員としての資質を身に付ける自主的、実践的な態度を育て、人間としての在り方生き方についての自覚を深めるとともに、現在及び将来にわたって自己実現を図る能力を養うという目標を掲げている。

### 2 現行学習指導要領の成果と課題

特別活動は、集団活動や体験的な活動を通して、豊かなホームルーム生活・学校生活を築くとともに、公共の精神を養い、社会性の育成を図るといった特質を踏まえ、特によりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力を育成することに重点を置いて、その充実を図ってきた。平成21年の学習指導要領の改訂では、各内容に係る活動を通して育てたい態度や能力を明確にするために、特別活動の全体目標を受けて各活動・学校行事の目標を明示したり、自主的、自発的な活動を一層重視したり、発達や学年の段階や課題に即した内容を示したりするなどの改善を行うことにより、その充実が図られてきた。

#### 【成果】

- ・構成の異なる集団を通して行われるそれぞれの活動が、生徒が学校生活を送る上での基礎となる力や社会で生きて働く力を育む活動として機能してきた。
- ・各活動及び学校行事を通じて、協働性や多様なものを認め合う土壌を育むなど、生活集団、学習集団として機能するための基盤がつけられている。
- ・集団活動が、生徒にそれぞれの集団への所属感、連帯感を育み、ホームルーム文化、学校文化の醸成へとつながっている。

#### 更なる充実が期待される今後の課題

- ① 育成を目指す資質・能力の視点  
各活動において身に付けるべき資質・能力や、資質・能力の向上につながる学習過程が、必ずしも意識されないまま指導が行われてきたこと。
- ② 学習指導要領における内容の示し方の視点  
各活動の内容や指導のプロセスについて構造的な整理が必ずしもなされておらず、各活動等の関係性や意義、役割の整理が十分でないまま実践が行われてきたこと。
- ③ 複雑で社会の激しい社会の中で求められる能力を育成するという視点  
社会参画の意識の低さが課題となる中で、自治的能力を育むことがこれまで以上に求められ、また、キャリア教育を学校教育全体で進めていく中で特別活動が果たす役割への期待も大きいことなど、社会の変化や要請を視野に入れ、特別活動において育成を目指す資質・能力を示す必要があること。

### 3 特別活動の在り方

中央教育審議会が平成28年8月に公表した「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」においては、特別活動の成果と課題を踏まえ、特別活動の目標の在り方などが示されている。

## (1) 課題を踏まえた特別活動の目標の在り方

特別活動は、教育課程全体の中で、次の役割をバランスよく果たすことが求められる。

- ① 特別活動の各活動において資質・能力を育む役割
- ② ホームルーム活動を通じてホームルーム経営の充実が図られ、学びに向かう学習集団を形成することや、各教科等において育まれる「見方・考え方」を特別活動の中で実践的な文脈で用いることによって、各教科におけるより「主体的・対話的で深い学び」の実現に寄与する役割
- ③ 教育課程外も含めホームルーム・学校文化の形成等を通じて学校全体の目標の実現につなげていく役割

## (2) 特別活動における「見方・考え方」

特別活動とは、様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。また、実生活の課題を解決するために、様々な集団活動を通して、各教科等における学びを実際の場面で総合的に活用して実践する時間であるとともに、特別活動の学びが各教科等の学習を行う上での土台となるといった各教科等と往還的な関係にある。このような特別活動の特質を踏まえつつ、特別活動の「見方・考え方」は、「各教科等における見方・考え方」を総合的に活用して、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連づけること」と整理された。

## 4 特別活動の充実に向けて

特別活動は集団活動を前提としていることから、ホームルームを基盤とするホームルーム活動、全校集団による異年齢集団の活動としての生徒会活動、全校又は学年規模の集団を単位とする活動として学校行事を設定するなど、様々な規模による集団の活動を準備し、社会体験等の学びを行っている。そうした活動や成果として、次のようなことが考えられる。

【例 望ましい人間関係の構築】 … ホームルーム活動、生徒会活動など  
挨拶運動や清掃等の全校や学年、ホームルーム独自の取組を実践することにより、自分たちの学校、自分のホームルームといった帰属意識が高められ、生徒同士の人間関係が深まる。

【例 自主的・実践的な態度の育成】 … ホームルーム活動、学校行事など  
生徒が自分たちの行動について深く考えたり、感情や衝動などを制御しつつ、決められた行動を状況に応じながら行うなど、現実に即して行動することができる。

【例 活動の振り返りによる自己肯定感の育成】 … 生徒会活動、学校行事など  
生徒自身の行動や考え方や人間関係の変化など様々な意識の変化について、活動後に振り返る機会を設けることにより、自己肯定感を高め、新たな行動目標を生む。

## 5 目標と指導内容との関連を十分に図った効果的な実践事例

次に示す事例は、ホームルーム活動や生徒会活動において、地域の一員として防災に参画する意識を深めることを通して、自主的、実践的な態度の育成を目指した事例である。


### ○ ホームルームと生徒会を軸とした活動の例

1 活動の内容 地域の災害について考え、高校生として地域社会の防災に参画する憲章を決定する。	
2 目標 今後、社会で遭遇する可能性のある災害や事故に対し、正しい知識と技能を習得するとともに、積極的に社会貢献を果たそうとする態度や、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育み、地域を支える防災リーダーを育成する。	
3 活動の計画	
活動の場	活動内容
全校生徒への講演会 【学校行事】	・講演会を通じた生徒の課題意識の向上
ホームルームの時間 【ホームルーム活動】	・地域の防災に関する意識調査の実施
ホームルームの時間 【ホームルーム活動】	・地域の防災への関わり方の考察
ホームルームの時間 【ホームルーム活動】	・各自が防災に関わる「自分宣言」の作成 ・「高校生防災憲章」案の作成
生徒総会 【生徒会活動】	・「高校生防災憲章」を作成する意義や内容を全校生徒に紹介し、全校の意見として採択
ホームルームの時間 【ホームルーム活動】	・生徒総会で決定した「高校生防災憲章」をもとに、各自が実行できる取組を考察 ・取組状況や成果の振り返り
	<p>問題の発見</p> <p>↓</p> <p>議題の決定</p> <p>↓</p> <p>計画の作成 問題の意識化</p> <p>↓</p> <p>話し合い活動</p> <p>①問題意識の共有 ②問題解決に向けた話し合い活動 ③集団決定</p> <p>↓</p> <p>実践・振り返り</p>
	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>・地域の一員としてどのように防災に関わるべきか、話し合いを通して考えが深まるよう、自分の考えをまとめようとしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>・互いの意見を認め合いながら、「高校生防災憲章」案づくりのために、具体的な考えや理由を示し、意見を述べている。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>・生徒自らが地域の防災の在り方や取組の意義を理解している。</p>
	<p>指導や評価のポイント</p> <p>地域の防災や自己の安全に関心をもち、自主的に自分の考えを深められるよう、具体的な事例を提示するなどして指導する。</p> <p>「高校生防災憲章」を作成する意義を補足しながら、自分の考えを深めるとともに、学校の一員としての所属感が深められる話し合いになるよう指導する。</p> <p>作成までの過程や生徒総会への参加態度だけではなく、「高校生防災憲章」をもとに、地域の防災の在り方を考え、自分が具体的に取り組む内容が記載できているか評価することが大切である。</p>

### 社会への参画


**「高校生防災会議」の開催**

- ・高校生による「防災活動」の報告
- ・市の防災担当による「市の防災」についての報告
- ・高校、大学、防災関係機関によるパネルディスカッション
- ・「高校生防災憲章」の検証



**「幼稚園防災教室」の開催**

- ・課題研究「地域貢献グループ」による幼稚園児への防災指導
- ・合同避難訓練の実施
- ・防災合言葉の確認



### ＝高校生防災憲章＝

- 1 家庭や地域、学校での挨拶を心がけ、いざという時に助け合える関係を築きます。
- 2 災害についての正しい知識と対応方法を学び、周りにも伝えていきます。
- 3 自分の身のまわり、地域の隠れた危険について把握します。
- 4 家族や大切な人との集合場所や連絡方法を決めておきます。
- 5 家庭や地域、学校で実施する防災訓練などに積極的に参加します。
- 6 想定にとらわれず、常に最悪を考え、今できる準備をおこないます。
- 7 災害に備え、非常持ち出し品など準備します。
- 8 避難する時は、最小限の荷物で素早い行動をとります。
- 9 強い揺れや長い揺れを感じたら、津波を想定し、率先して高台に避難します。
- 10 自分にできることを見つけて、互いに助け合い、困難を乗り越えます。

平成26年10月25日制定 高校生防災会議

# Topic

## よりよい人間関係を築く力や社会に参画する態度の育成に向けて ～子ども理解支援ツール「ほっと」の活用～

特別活動では、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築くとともに、公共の精神を養い、社会性の育成を図るという特別活動の特質を踏まえ、特によりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視している。このことから、コミュニケーションスキル（社会的スキル）の育成に向けた取組を積極的に実施していく必要がある。

取組を進めるに当たっては、学校の実態や生徒の発達の段階及び特性等を考慮した指導計画を作成するとともに、評価を通じて教師が指導の過程や方法について反省し、より効果的な指導が行えるよう、生徒一人一人の評価のみならず、集団の発達や変容についての評価も行い、評価の結果を適切に指導に生かすことが重要である。

これらに資するツールとして、北海道教育委員会は、北海道医療大学と連携し、児童生徒のコミュニケーションスキル（社会的スキル）の状況を発達の段階に応じて測定することができるツール「子ども理解支援ツール『ほっと』」（以下「ほっと」という。）を、平成24年6月に開発した。

### 【子ども理解支援ツール「ほっと」】

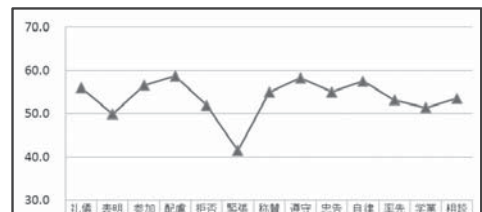
#### 1 測定することができるコミュニケーションスキル（13要素）

13要素	略称	要素の説明
挨拶や感謝	礼儀	挨拶や「してもらったこと」への感謝ができるか。
発言や説明	表明	意見や欲求を主張できるか。
仲間づくり	参加	対人参加や、仲間と協調することができるか。
思いやり	配慮	相手への配慮や親切、援助ができるか。
拒否	拒否	断ることや、他者からの無理な働きかけに「やめて」と言うことができるか。
緊張	緊張	緊張や不安によって話せなくなることがあるか。
称賛	称賛	相手をほめたり喜ばせたりすることができるか。
ルールやモラル	遵守	規則や秩序を維持したり、不適切な行為を謝罪できるか。
助言や注意	忠告	社会的な望ましさを促進する働きかけができるか。
自律	自律	協調性や我慢などの自律的な行動ができるか。
リーダーシップ	率先	集団をまとめることなど、リーダーシップ行動ができるか。
学業	学業	学習に関連した望ましい行動ができるか。
相談	相談	相談や自己開示ができるか。

#### 2 活用例

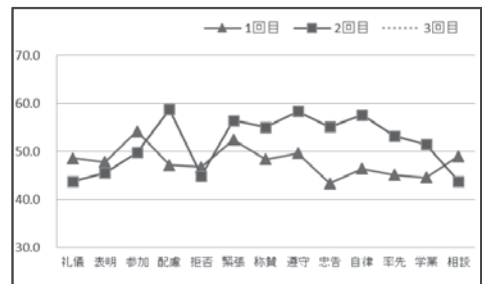
##### (1) 課題の明確化

「ほっと」の分析結果は右図のような折れ線グラフで表示される。50の数値を下回るスキルは課題があることが想定されるので、このスキルを改善するような取組や機会を積極的に設定することが効果的である。



##### (2) 教育活動の効果測定

教育活動の事前及び事後で「ほっと」を実施することにより、コミュニケーションスキルの視点から効果を測定することができる。コミュニケーションスキルの変容を考察し、今後の指導の改善に資することができる。



参考：○教職員向け資料「子ども理解支援ツール『ほっと』」

～児童生徒理解の充実にに向けて～（平成28年3月、北海道教育委員会）